

連載 技術経営

第10回 デジタル技術で環境変化に対応 —変化を先取りし、技術とビジネスモデルで変革—

理事(工学博士)
山中 隆敏

新型コロナ感染リスクを避ける行動変容で、テレワークなどデジタル化が一気に進んだ。コロナ禍を機会と捉えデジタル技術とデータを活用したサービスで変革する企業が出始めてきている。

技術活用で医療の質の向上

日本のベンチャー企業が、世界中の医療機関と連携し、臨床現場での意思決定をAIで支援するクラウドサービスを提供している。AI画像診断技術でガンの疑いのある場所を自動的に検出、膨大な医学知識データと診療情報とを突合せ、推奨の診断情報を提示するサービスで医療の質向上に繋げている。

オンライン診療や遠隔手術を行う非対面・非接触での医療サービスを提供している。医療ロボット、5G、仮想現実などの技術を活かし、患部の感触を遠隔地からリアルタイムで感じることができる。あたかも目の前にいるかのような診察や処置ができるようになる。遠隔地にいても、より自然な状態で同じ空間にいるかのような一体感と意思疎通、移動コストが削減できる有効なサービスである。

新興国で活躍する日本企業

東南アジアでは、国立銀行と連携し、世界に先駆けて実現したデジタル通貨。ブロックチェーンを活用した少額決済から企業間取引まで行う。スマホがあれば決済できるデジタル通貨は現金と同等の価値を持ち取引できるため利便性が高まる。

商業施設と連携し、カメラから画像分析や顔認証で、店舗入店者の体温測定やマスク着用を自動チェックし感染リスクを入り口で食い止める。来店者数をカメラ映像から自動的に数えて店舗内の混雑状況が見える化し、密にさせない社会環境変化に適応したサービスである。

常に変わり続けられる企業

トヨタ自動車は、自動車メーカーから「移動」に関わるあらゆるサービスを提供していくモビリティ企業へ変わると宣言した。これは、大企業といえども環境変化に適応出来なければ停滞し生き残れない。企業は、環境変化を先取りし変化への対応力（課題を設定し解決）する研究開発に投資する。ビジネスモデルを常に変え続けながら、技術とデータを活用した商品サービス提供は、中小企業にとって活躍成長できる機会となりうる。

連載 技術経営

技術経営リーダーが変革を牽引

企業は環境変化へ適応できるビジネスモデル、商品サービス価値を提供し続けることが変革を創る。それには市場と技術とモノコトづくりが分かる技術経営リーダーが牽引し顧客とともに創り続けることだと考える。

—以上—